

山の鼓動

を感じる



崩壊地を歩き、植生を知り、川の流を感じ、自然と人々の関わりを実体験することによって、そこに住む人々の生活を知ります。また、災害体験談等を通じて土砂災害の危険性を学びます。

まちづくり

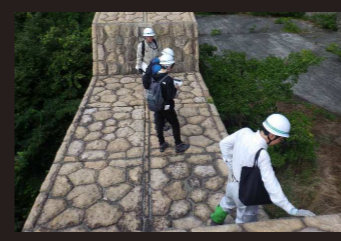
を考える



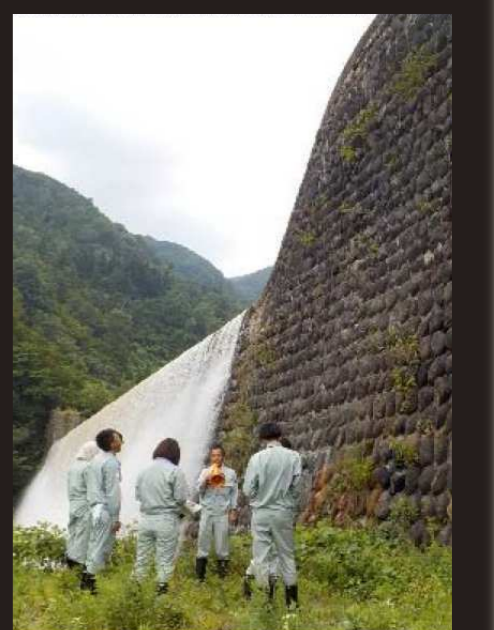
地域の方々の講話や観光業体験、地域イベント等に参加し、まちおこしについて考えます。

土砂災害

にふれる

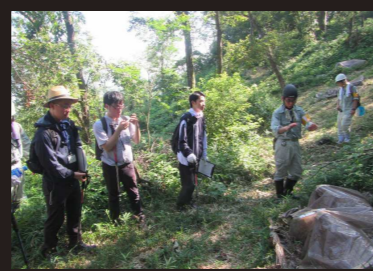


過去に起こった災害現場視察や砂防工事の実習を行い、日頃机上では学べない現場作業などを学びます。



モノ

を作る



農業体験や林業体験、機織りや木材加工など、地場産業や地域文化の体験を通じて中山間地域の現状を学びます。

キャンプ砂防とは

我が国は、急峻な地形、脆弱な地質等により土砂災害を受けやすい自然条件下にあります。さらに、近年中山間地域では、過疎化、高齢化に伴い森林管理の衰退や耕作放棄地の増加などにより荒廃が進んでおり、土砂災害の発生等大きな社会問題となっております。一方、このような中山間地域においては、活力ある地域づくりのために各地域の個性を活かした様々な取り組みがなされています。

このような中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的として、平成8年度より「キャンプ砂防」が実施されています。

◆キャンプ砂防運営委員会 / 【事務局】国土交通省砂防部砂防計画課
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3 TEL 03-5253-8111 (代表) FAX 03-5253-1610

◆キャンプ砂防推進協議会 【運営担当】NPO法人砂 土砂災害防止広報センター
〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲 4-11 TEL 03-5614-1114 (代表) FAX 03-5614-1109

<http://www.sabopc.or.jp/camp-sabo2019/>



『キャンプ砂防』参加者の声

いろいろな現場を見学し、どこもスケールの大きい土砂移動が起きている場所だけに、危険が伴い、人間の小ささを感じるような場所だった。このような場所で作業することで事故なども発生しやすいのではないかと懸念したが、緊張感があるからこそ普通の現場よりも事故が少ないと教わった。現場では、それまで砂防学で勉強してきた内容の復習のような部分もあったが、なによりも、直感的にスケールの大きさに戦慄を覚え対策の重要性を理解でき、なおかつ人間のたくましさを実感できた。

(広島大学 3年・女性)

様々な現場に行き、その道で働くプロの方々より砂防について学ぶことができた。砂防の現場は一般的に立ち入り禁止となっている場所が多く、独学で学ぶには限界があるが、この機会に現場の状況や現場の話などを聞け、大変参考になった。最新の作業機械に触れることができ、どのように作業しているのか、ICTはどのように導入されているのかといったことを理解できた。もともと砂防に興味があったのでキャンプ砂防に参加したが、もっと砂防について学びたいと感じた。

(宇都宮大学 4年・男性)

現場を見学し、安全管理が厳正に行われていた様子が印象に残った。少しのアクシデントが命に関わる重大な事故になり得る中、規則・法令を遵守した作業計画を行うことが重要と知った。現場は急な斜面に囲まれた場所であり、移動にモノレールや架線を利用し、重機は分解して現場に運んだ後に組み立てるといった工夫がなされていることを知った。現場管理をされている方からは、安全管理の責任というプレッシャーを負う一方、地固に残る仕事という大きなやりがいを感じることができた。

(静岡大学 3年・男性)